

特別史跡「水城跡」について

那珂支部 田中 巖頼*

1) はじめに

私は、那珂土木事務所勤務が現在二年目で土木事務所管内である大野城市に住んでいます。大野城市民となり、はや6年がたち、管内ということもあり、地理的などころも把握できてきたところですので。そこで、大野城市の名前の由来にも関係している特別史跡「水城跡」についてわずかながら紹介したいと思います。

2) 大野城市の概要

大野城市は、福岡市の南に位置し、国道3号、県道福岡日田線（旧国道3号）JR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線等が南北に貫通しました。また、九州自動車道、福岡都市高速道路が近接していることから、交通の便に恵まれた地域となっています。人口は、約94,000人です。「大野城」の名称は、白村江（はくすきのえ）の戦いで大敗を喫した日本が、大宰府防衛のために、天智4年(665)に大野山（今の四王寺山）に築いたわが国最古の朝鮮式山城「大野城」（おおのきのき）に由来しているそうです。

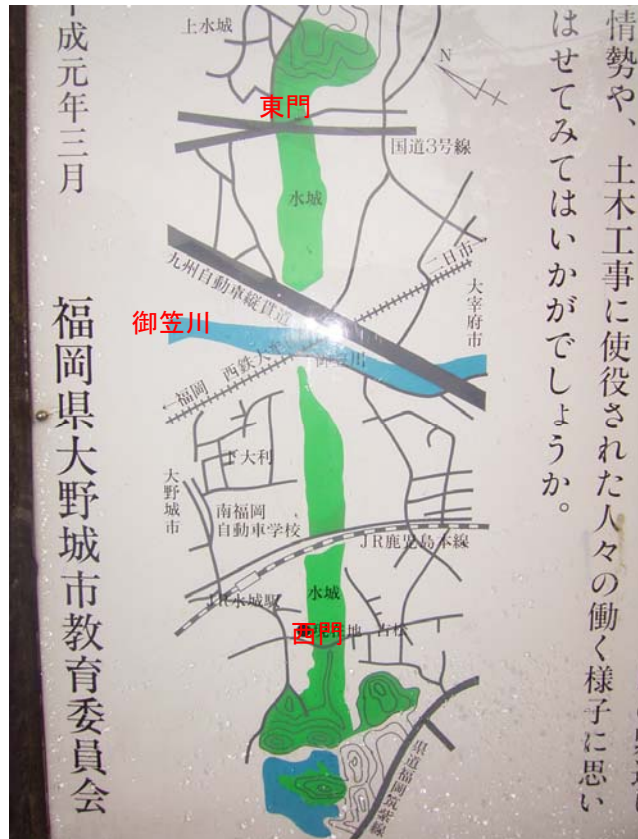


3) 水城とは

水城とは、市名の由来にもあるように、白村江の戦いで大敗を喫し、この後、唐と新羅が攻めてくるおそれがあり、大宰府を守らなければならないことから、築造された防衛施設です。平野部に土塁（土堤）を築造し博多側に水を湛えたものです。

右図の緑の部分の水城で、敵の侵入を防ぐため平野部に直線に築造されています。官道が水城のところ2本とおっており、東門（福岡日田線）は、博多に通じており、西門（市道）は、鴻臚館に通じていたそうです。

水城が、特別史跡だからでしょうか、九州自動車道、その下を通る国道3号、西鉄天神大牟田線が水城を避ける形で御笠川付近をとこせましとクロスしています。

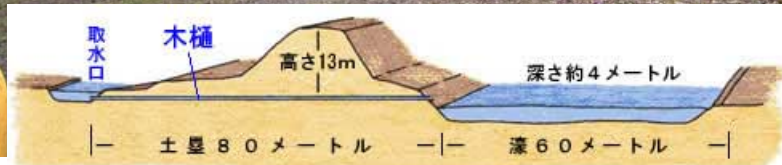




「水城」は、上の写真でもわかるとおり、四王寺山（写真奥）より平野部を分断するよう直線的に築造されています。水城が分断されているところに御笠川が流れています。

右の写真で住宅側が博多側です。下図（大野城市HPより抜粋）によると博多側に約60m、深さ4mの堀があり、写真で言えば、平地のところ堀だったのでしょいか。現在でもこれだけ大きなものですので、約1300年前は、ものすごく壮大でおそらく博多湾が一望出来ていたのでしょう。

図中にある木樋の跡も発見されています。それが下の写真で太宰府側より樋管で博多側に送水していました。



太宰府側

博多側



右の写真が水城の断面がわかる写真です。
太宰府傾斜がなだらかなのに対し、博多側の傾斜がきついことがわかります。



左の写真が「西門」があったとされる場所の
写真です。現在は大野城市と太宰府市を結
ぶ市道となっています。現在は通勤・通学路
として使用されていますが、当時は、外交使
節を鴻臚館で迎え、西門を通っていたと考
えると当時がどのようなものだったものか知
りたくなるものです。

右の写真が「東門」があったとされる場所
の写真です。現在は、県道福岡日田線（旧国
道3号）です。ここでは、東門の礎石が見つ
かっています。



左の写真は、奥から西鉄大牟田線、御笠
川、九州自動車道（高架上）、国道3号（高
架下）の写真です。またここで、九州自動
車道と西鉄大牟田線、御笠川はクロスして
います。

このことから、水城が、いかに博多湾よ
り攻めてくる敵を意識して築造されていた
かがわかるような気がします。

4) おわりに

水城は、防衛施設とはいえ、約 1300 年前に土木工事により築造された施設です。私も、後世に残せる土木工事をこころがけて行きたいと思います。

なお、私は歴史には詳しくなく、調べてわかった範囲で記述しています。記述に誤りがあった場合はご容赦下さい。

* 那珂土木事務所河川砂防課河川係